

ポストコロナの合唱活動を考えよう facebook 公開グループ 千葉さんが立上げ

新型コロナウイルス感染症の猛威が未だ衰えを見せず、先行きの見えない状況に多くの合唱人が不安を感じています。

合唱は、3 蜜といわれる、密閉、密集、密接の要素がすべて当てはまるもので、みなが集まって歌うこと自体がクラスターを生む危険性があるため、おそらく日本中の合唱団はほとんど活動を停止しているはずです。実際、公共の施設はほとんど閉鎖されており、集まることなどできません。

ところで、合唱団員は歌う機会がなくて寂しいだけで済みますが、ここで大きな問題は、フリーランスの合唱指揮者やピアニストの方々の収入源が絶たれてしまうことです。このまま放置していると果たして将来合唱活動を再開できるのか、大切な文化が失われてしまうのではないかと。

未曾有の感染症を目の前にして、何とか打開策はないかと多くの方々が可能性を追求しています。そのような皆さんの置かれた厳しい現状や思い、試行錯誤の取り組みなどを多くの方々と共有したいということから、この『おんがく広場』をはじめました。

☆————☆————☆————☆————

facebook【ポストコロナの合唱活動を考えよう】

4月25日、男声合唱団「合唱団パリンカ」(仙台)の指揮者であり、小学校教員でもある千葉敏行さんが管理者となって、facebook に『ポストコロナの合唱活動を考えよう』という公開グループを立ち上げました。

<https://www.facebook.com/groups/222840199011862/>

この情報はたちまち全国に広がり、翌日には瞬間に 550 人を超すメンバーが登録しました。

【管理者 千葉敏行さんのことば】

(4/25) このたび「ポストコロナの合唱活動を考えよう」というグループを作りました。自己紹介となりますが、仙台の男声合唱団「合唱団パリンカ」の指揮者を始めて今年で 30 年になります。小学校の教員で、勤務先では子供たちの合唱団の指導もしています。本当に悲しい、悩ましいことだらけです。困ったことだらけです。主に以下のことについて情報交換したいと考えています。

①練習再開に向けて

- ・小学校～高等学校の部活動再開
- ・大学生サークルの再開
- ・一般合唱団の練習再開

②練習再開までにできること

- ・自己研鑽
- ・オンラインレッスン
- ・情報発信・情報交換

③練習再開したらやりたいこと

④ポストコロナを生き抜くには合唱団がすべきこと

埼玉では加藤良一さんが「おんがく広場」を発行し、コロナ時代の合唱について情報発信を続けています。たくさんの刺激と勇気をいただきました。

現在私たちは、想定外・前代未聞の毎日を過ごしています。コロナは極めて合唱と相性が悪いジャンルです。また、「三密」回避の活動はさまざまな困難を抱えています。現在オンラインによる様々な模索や実践が続いています。しかし、明けない夜はありません。活動再開に向けて策を練らなければなりません。ポストコロナの合唱は様々な困難を抱えています。

「三人寄れば文殊の知恵」といいます。よろしく願い致します。

(4/26) 昨日「ポストコロナの合唱活動を考えよう」というグループを立ち上げたところ、一日で 500 名を超える、全国各地から名だたる合唱人が集いました。それほどまでに、みな悩み、危機感を持っているということでしょうか。

さて、高校時代、マイコンをやっている後輩を根暗と馬鹿にしていました。ごめんなさい。おかげで、30 歳になるまでワープロをなかなか卒業できず、パソコンになかなかじめませんでした。あるきっかけで子供の LINE を見る機会があり、あまりに内容が酷く(便所の落書き状態)、自分は一生 LINE をしないと誓ったのに、LINE の可能性をつきつけられています。うーん。

フォートナイトでオンラインゲームについて保護者からご意見をいただき、オンラインゲームの指導に手こずって以来、「オンライン」は悪いものというデータがインプットされていました。でも、オンラインゲームを当たり前楽しんでいる子供たちの方がこれからの時代、適応していくんだよなあ。思い込みは禁物ということだろう。長所・短所を踏まえて、うまく活用していくことなんだろうが、頭が固くて…

☆————☆————☆————☆————